

史跡地周辺の整備計画は 13区で地域懇談会

13区まちづくり地域懇談会が11月10日、同公民館で開催されました。

懇談会では、柳之御所遺跡から無量光院跡周辺の整備計画など史跡地周辺の今後の見通しなどについて意見を交換しました。今月号では、主な内容についてお知らせします。(以下、主な質問など。Q ↓ 質問、A ↓ 回答、意 ↓ 意見)

Q 柳之御所の整備計画は？

A 県では、建造物の復元や案内板設置、植栽整備などを進める予定であるが震災復興などの関係で時期は未定である。また発掘調査については平成30年度ごろまで実施していく予定である。

Q 無量光院跡の整備計画は？

A 無量光院跡については、24年度から28年度までの5カ年で池や島、島を結ぶ橋などを整備復元する計画である。

Q 道の駅の整備計画は？

A 道の駅整備については25年度に設計を開始し、26年度に建設、27年度完成の予定でい



史跡地周辺の整備について意見を交わした13区地域懇談会

るが、国と町の土地についての協議で時間がかかっている。運営については、公設民営の方向で商工・農林部門と相談していきたい。他の道の駅の整備事例を踏まえ、運営団体を早期に決めた上で、整備をスタートさせたい。県道相川平泉線の廃止の問題については、要件が緩和しており現時点では、要件が緩和しており現状のままの見通しである。

町道館前線については、柳之御所整備計画に入っている路線であり、県の整備の見通しが不明であるので県と協議をしていきたい。

意 道の駅建設の場所選定については、あせらず慎重にお願いしたい。

意 道の駅を運営していく主任者は、商売のノウハウを持つた人を選定してほしい。また生産者団体の育成や通年出荷のための作付け計画など、コンサルタントなどの話やいろいろな事例を見て検討してほしい。

A 成功している道の駅は地元の人が多く利用しているので、地域で盛り上がりつついくようなものを検討していきたい。

意 町道館前線と無量光院跡を結ぶのか？ 遊歩道のようなものがあってもいいと思う。

Q 無量光院跡の水張りなどについても早く整備をしてもらえないか？

A 地元からの後押しを頂きながら整備を進めていきたい。



整備が待たれる柳之御所周辺

町長と懇談しませんか
平泉町まちづくり
地域懇談会の開催募集

町では住民参加によるまちづくりを目指し、町民との直接対話による意見交換を目的に、町長が地域に向き、懇談する「平泉町まちづくり地域懇談会」を行っています。

◎申し込みできる人は？

行政区や町内で活動する各種団体でお申し込みください。(参加員数は、何人でも可)

◎開催場所は？

開催場所は、地区公民館等の施設とします。申込者の方に開催場所の確保をお願いします。

◎開催日時は？

原則として、平日の午前9時から午後9時までの間で、2時間程度を目途にお願いします。

詳しくは総務企画課までお問い合わせください。

問い合わせ先：総務企画課

☎46-5578

おめでとう 千葉さんが百寿を迎える

100歳



100歳の誕生日を迎え、菅原町長から祝福を受ける千葉さん

千葉朔夫さん(12区)が11月3日、満100歳の誕生日を迎え、菅原町長から記念品と花束の贈呈を受け長寿を祝福されました。

町長が「満100歳おめでとうございませう」と声を掛けると「ありがとうございます」と笑顔で感謝していました。千葉さんは明治44年生まれ。5人の子どもを育て、孫とひ孫がそれぞれ13人います。昨年までは畑に出て農作業もしていたそうで、現在でも身の回りのことは全て自分で行います。今の楽しみは「週2回のデイサービスに行き、仲間と会話をすること」と話していました。

阿部さんに

民生児童委員協議会会長表彰



受賞を町長に報告する阿部さん(右)

第64回県社会福祉大会が11月8日、県民会館で開かれ阿部金雄さん(4区)が県民生児童委員協議会会長表彰を受賞しました。阿部さんは、平成10年12月から民生児童委員を務め、多年にわたり社会福祉事業に貢献されました。

須藤さんに

卓越技能者表彰



受賞を町長に報告する須藤さん(右)

県卓越技能者表彰式が11月14日、盛岡市内のホテルで開かれ須藤治義さん(13区)が表彰を受けました。須藤さんは、手作りちようちん製作工として長年技能の研さんに励み、貴重な伝統技術の保存に努めていることが認められました。

千葉さんが「私の仕事」作文コンクールで入賞



コンクールで特別賞を受賞した千葉さん

県立水沢商業高等学校3年の千葉夏美さん(8区)が第7回全国高校生「私の仕事」作文コンクール(NPO法人仕事への架け橋主催、文部科学省ほか後援)で大震災若者特別応援枠に入賞しました。同コンクールには全国から4104名の応募があり、文部科学大臣賞など24点が入賞作品として選ばれ、千葉さんは見事24作品のひとつに入賞しました。千葉さんは「震災で停電の中、交通整理をする警察官や、屋外で商品を販売するスーパリーの従業員など、震災の中仕事に取り組む姿を見て、働くことは自分のためだけでなく、周囲の人のためにもなることを実感した」と話し、その内容を作文にしました。

「社会に出れば、これまでより多くの人との出会いがある。たくさんの人に元気を与えられる職業人になりたい」とこれからの抱負を話していました。